

ロスアンデス大学開発経済研究センター(研究機関紹介)

著者	幡谷 則子
権利	Copyrights 日本貿易振興機構(ジェトロ)アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	ラテンアメリカレポート
巻	3
号	2
ページ	25-25
発行年	1986-06-20
出版者	アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00006733

CEDE: Centro de Estudios sobre Desarrollo Económico

幡谷則子

(中南米総合研究プロジェクト・チーム)

現在、国立大学よりも私立大学の方が組織運営上安定し、質的にも充実しているコロンビアで、ロスアンデス大学はハベリアーナ大学と並んで私立大学の双璧をなす。両校とも人文・社会科学系に優れ、なかでもロスアンデス大学経済学部付属の開発経済研究センター（CEDE）は、その研究水準の高さによって内外ともに確かな評価を得ている。

創立は1958年9月。コロンビアの社会・経済発展に関する諸問題の調査研究機関として設立され、60～70年代の国家経済成長期を通じて発展し、30年近く確実に業績を残している。だが近年は経済危機のあおりを受け運営資金面では苦慮しており、米フォード財団をはじめとする民間法人、あるいは政府機関にも依拠している。

CEDEの研究領域で最も実績のあるのは、都市雇用問題についてである。60年代に都市の発展と失業に関して、コロンビアで初の実態調査を行なったのが基礎となり、70年代は「都市の貧困と雇用」指標作成のための労働市場分析へと発展した。80年代現在も「雇用・貧困と所得分配」という総合課題の下に、密度の濃い研究が続けられている。この他CEDEが力を入れてきた分野は、「人口と発展」「地

域・都市経済」「経済政策と計画」「工業開発」「農村と農業開発」「エネルギー経済」「女性と家族に関する問題」等である。また、開発プロジェクトの社会・経済的評価や経済予測等も行なっている。

このように、CEDEの活動はコロンビアの開発問題研究が主体だが、国際的テーマにも取り組み、それを通じて人的交流にも努めている。欧米、ラテンアメリカ域内のみならず、アジア、アフリカとの国際比較も行ない（たとえば1984年に実施された「第三世界の女性問題に関する研究」における国際ワーク・ショップ）、最近では日本への関心も高まりつつある。また、ILO、IDB、国連大学をはじめ、海外の諸研究機関との共同研究も活発に行なっている。

専任スタッフ（1985年、約30名）の大半がエコノミストだが、工学、社会学の研究者も擁し、学際的研究体制をとっているのも特色のひとつである。1985年現在の所長はA・M・カーノ、前所長のR・E・レベイスは現経済学部長である。その他、現代の都市、雇用問題においては権威的存在のU・アヤラから、大統領の経済政策顧問を務める重鎮L・キュリーまで、人材も豊富である。

CEDE独自の図書館の蔵書は約3万冊、受け入れ定期刊行物は700点を誇り、うち250点は内外諸機関との交換ベースである。出版物としては、1984年までに、報告書の類が72点、単行本で15点を数える。年3回（1月、5月、9月）発行される機関誌 *Desarrollo y Sociedad*（1979年創刊）は、コロンビアの社会科学分野では代表的な学術誌のひとつである。

連絡先: Universidad de Los Andes, CEDE
Carrera 1a, E. No.18-A-10
Apartado Aéreo 4976
Bogotá, Colombia
Telefs 2348156, 2824066



ロスアンデス大学キャンパス風景